

『中国語』

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度の共通テスト『中国語』の受験者は874人で、追・再試験を含む昨年度の784人に比べて90人増加した。「外国語」受験者の約0.19%であり昨年度より微増している。今後も大学側がより一層中国語を入試に活用することが求められている。引き続き高等学校で中国語を学んだ高校生が進学に活用できる客観的な水準設定が望まれる。

令和7年度共通テストを以下の3点をよりどころに、また、21ページに記載の8つの観点によって、総合的に検討・評価に当たることとする。

(1) 共通テストは「高等学校教育の成果として身に付けた、大学教育の基礎力となる知識・技能や思考力、判断力、表現力等を問う」試験であるという観点に立ち、学習指導要領「外国語」の目標を重視する。

その際、大学教育の基礎力を踏まえ、また、高等学校において英語以外の外国語を初めて履修する者もいることを考慮すること。

(2) 「高等学校における学習の成果が総合的・客観的に判断できる出題となっているか」について、以下の教育現場からの「基本的要望」が尊重されているかを重視する。

① 細かすぎる難解な語法を問うことはせず、基本的な文法力を問うこと。

② 長文読解は、高校生になじみやすいテーマを選び、内容が抽象的すぎ、論理的に説明が難しいような出題は避けること。

③ リスニング試験が実施されないことを補うために、また、中国語学習にとって重要な発音の理解度を見るために、ピンインを重視して出題すること。

(3) 令和6年度の問題作成部会の見解を参考とすること。

2 内 容・範 囲

第1問 A～Cは昨年度と同じく発音の基礎を確認する問題であり、Dはピンインで示された会話文を使っているが、昨年度のような抜けている会話文を選択する形式ではなく、会話の状況や発話者の言いたいことを問う問題となった。ピンイン学習を重視し、リスニング問題を補うだけでなく、様々な情報を基に推察する思考力も重視する傾向がある。

第1問	A	B	C	D
計9問	声母	韻母	声調	ピンインによる会話
(計36点)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	8点(4点×2問)	12点(4点×3問)

A 見出し語の下線部の声母(子音)と同じものが選択肢の中に幾つあるかを選ぶ形式。提示された語句はみな重要語であり、ピンインの表記、発音の理解を問う問題として適切である。

問1 示されている単語の声母はj・h・xであり、やや容易かと思われる。一考を要する。

問2 唇音と舌尖音が示された。無気音と有気音の組合せがここ数年出題されていたが、今回は多様な声母の組合せでありきちんと学習していないと間違えやすく、適切である。

B 韻母(母音)に関する出題である。見出し語も選択肢も重要語。出題として適切である。

問1 後鼻音の判別である。適切な設問である。

問2 二重母音“ou”と“uo”の違いを正確に学習していないと間違えやすい。良問である。

C 声調の組合せを問う問題。見出し語と同じものの数を問う形式である。問1は二音節語で、問2は三音節語。単語は重要語であり適切な出題である。

D 会話文と選択肢共にピンインで示してピンイン学習を重視する出題となっており、選択肢共に特に難解な語句はないが、単なる応答ではなく状況を考える面もあり評価できる。

問1 日常的な生活の場面が使われており、最後まで正確に読み取り総合的に考えないと正答しにくい。思考力を問う良問である。

問2 「Bの言いたいこと」を選択させる問題であるが、Bの台詞の“打不过我们二班”が分かれば正答できると思われるのでやや工夫が欲しいところである。

問3 この形式の設問としてはやや容易であり選択肢の日本語文に工夫するなど一考を要する。

第2問 昨年度同様の出題形式と配点である。

A 適当なものを選ぶ空欄補充の問題。類義語の知識が要求される。選択肢は重要語である。

問1 帽子を“取る”に対応する動詞を選択する問題。服を脱ぐ際の動詞“脱”等との使い分けができていないかを見る良問。

問2 動作の方向・相手を表す介詞から適切なものを選択する問題で、後に続く“人+学習”に合う介詞を選択する適問。

問3 似た意味の動詞から文中に合うものを選ぶ設問。選択肢の中で二重目的語をとれるのは“告诉”のみであり比較的容易であった。

B 類義語を問う問題。「適当でないもの」を選ぶという設問形式は難度が高くなる。選択肢はいずれも重要語である。

問1 個人の具体的な「その頃」という意味では“时代”は使えない。言葉の組合せの適切さを問う良問。

問2 文の因果関係を理解し、かつ選択肢の各語の意味を判別できなければ解けない適問。

問3 副詞や目的語に応じた動詞の選択を考えさせる良問である。

C 短文中の空欄に入れる適語を8つの選択肢から2つ選ぶもの。16は文の要旨を読み取り適切な語を選択するよく練られた問題である。17は“靠”という動詞の性質を理解しているかを問う適切な問題である。

第3問 中国語の作文、中文の和訳を通して、センテンスの表現力、理解力を測る問題である。設問形式、設問数は昨年度と同じである。難しい単語はなく学習してきた文法事項や語法を活用し、表現内容を考えて思考することで正答できる設問になっている。

A 和文中訳問題で、与えられた8つの単語から4つ選んで並び替えるもので、選択肢の語句も重要語の範囲内であり、文法や語句の用法の確認する問題として適切である。

問1 “跟～一样”の表現形式、“差不多”や語気助詞の用法を組み合わせさせた良問である。

問2 比較構文と様態補語、“稍微”の使い方の理解を確認する適切な出題である。

問3 “非～不可”の用法を理解していれば解答できる。正答率は高くないが、出題として適切である。

B 示された和文に相当するピンインで記された中国語文を選ぶ出題である。

問1 一語一語の対応ではなく、文全体の言いたいことを考えさせる適切な設問である。

問2 疑問詞を用いた強調表現、可能補語の用法を試している。選択肢の文の内容を正確

に見る必要がある。適切な設問である。

C ピンインで示された中国語文に相当する日本語を選ぶ出題である。

問1 “又不是”の表現、反語表現の理解を見る適切な設問であるが、選択肢の日本語文に判断力を試す工夫が欲しい。

問2 使われている語句は基本的なもので、“不一定”の表現の理解を試している。日本語文に工夫が見られ思考力を問う良問である。

第4問 A・Bともに「文章・表・図・グラフ」が用いられ、それぞれ会話文等の複数の言語材料から総合的に判断する融合問題であり、各問が見開きで見やすいよう工夫されている。

A 世界の森林減少についての会話文や調査結果に基づき、内容理解を問う設問である。

問1 会話文の内容と一致する選択肢を選ぶ問題。数的データの正確な読み取りを問う適切な問題。花粉症という身近な話題から世界の森林減少への会話の流れも自然である。

問2 世界各地の森林面積の増減状況をグラフと文章から読み取る設問である。棒グラフの増減の差異と説明文を照らし合わせながら読解する必要があり、思考力を要する良問である。

問3 設問で求められている文章中の因果関係を正確に読み取る設問であり、よく練られている問題である。

B 森林公園のイベントに協力する際の会話文やチラシ、タイムテーブル等の資料を読み、内容理解や中国語読解が融合された問題である。

問1 会話文と一致する選択肢を選ぶ問題で、基本的な文章読解力を試す適問である。

問2 木工体験の作り方を示すチラシと創作物を対応させる設問で、チラシから創作物を推察しやすく、チラシの文字情報を多くするなど一考を要する。

問3 イベントのタイムテーブルと参加した人の日記を読み、どの活動に参加したかを答える設問である。日記の後半に「各活動は初めから参加しないといけない」とあり、正答を導き出すために文章全体を把握した上で、タイムテーブルと照合する必要がある良問である。

第5問 祖父から影響を受けたという趣旨の長文を読み、設問に答える形式。設問数は昨年と同様であるが、文章量はやや減少している。

問1 文章の流れをつかみ、後述の“好玩儿”と対応させて読解できるかを問う適問である。

問2 自分の時は思い通りにならなかったという空欄の前の記述と対応させて、適切な比喩的表現を選ぶ良問である。

問3 “小心思”（興味が薄れた）ところから、祖父の手本を見て“好玩儿”と変化した下線部前後の心境の変化から解答を導き出す必要がある良問である。

問4 副詞“果然”の基本的な意味用法を理解しているかを問う適問である。

問5 前述の部分とのつながりをはかる設問である。“只有～，才…”といったフレーズの理解を見る面もあるが、話の流れで容易に正答を選択でき、選択肢に工夫を要する。

問6 選択肢を並べ替え、空欄に入る文章を作る設問。基本的な構文力が試される適問である。

問7 前後の文章の内容から空欄に入る適切なものを選択する問題。空欄の前の祖父が煙草をやめたといった具体例と後の内容から、言行一致を意味する正答の“说到做到”を比較的容易に選びやすい設問である。

問8 同段落の下線部の前述部分にない選択肢を選ぶ設問で、中国語の語彙力が試される良問である。

問9 本文にタイトルを付ける設問である。文章全体の主旨をつかめていれば正当できる良問

である。

問10 本文の内容と一致するものを選ぶ設問で、文章の内容理解を問う適切な設問である。

3 分量・程度

(1) 分量

第4問は文章と資料・会話を組み合わせた問題であり、複数の材料から情報を読み取り判断する問題である。これは共通テストに移行した以降の全体的な傾向であるが、多くの情報を含む文章を理解し考察する能力を試される。また、今年度の第5問の長文は33字×25行で、文章量が昨年度よりやや減少している。

(2) 程度

第4問の各設問を見開き2頁内に収めており受験者への配慮が認められる。昨年度と比べ、第5問の文章量は減少しており、内容について考えさせる問題が多くなった。

内容的には今年度の設問は、高校生にとって語句や内容において難解なレベルのものは多くない。今後も文章量と思考に要する時間のバランスを考えていただきたい。

4 表現・形式

全体の出題形式を見ると以下の通りである。マーク数も昨年度と同等である。

内容	発音・ピンイン	語句	表現力	複合的な資料の読み取り	長文読解
問題番号	第1問	第2問	第3問	第4問	第5問
設問数	9	7	7	6	10
配点	36点	32点	28点	52点	52点

5 ま と め（総括的な評価）

令和7年度共通テストは、前年度同様、設問形式や内容、単語の選択において高校生レベルの出題が多く、思考力、総合的な判断力を問いながらも、高等学校から中国語を学び始めた受験者を意識した出題者の工夫が感じられた。

本試験	平成31年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
受験者数	665	667	625	599	735	781	874 (+93)
平均点	150.89	167.41	160.34	164.79	162.76	172.08	166.02 (-6.06)

中国語の受験者数は増加する傾向を示している。共通テスト受験者全体が減少していることを考えると、外国語における中国語科目の社会的なニーズは引き続き大きいと考えられ、今後も共通テストの科目として有効に活用されることを希望する。他の外国語に比べ平均点が高いことについては中国語母語話者の受験者が多いことが推察され、あえて難解な語句を使うなどしても、日本の高等学校で中国語学習を始めた生徒の得点が下がることしか期待されない。今年度の問題作成は高等学校から中国語学習を始めた受験者が熟考すれば正答できる問題も多く、工夫が見られた。

内容的にも学習指導要領「外国語」の目標に基づいており、全体としてはおおむね適切な問題だったと思われる。

今後も前文で述べた点について御考慮いただき、高等学校から中国語学習を始めた生徒たちが「是非受験したい」と思う出題をお願いしたい。